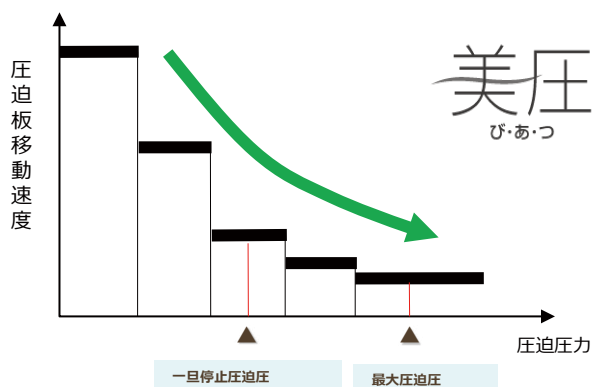
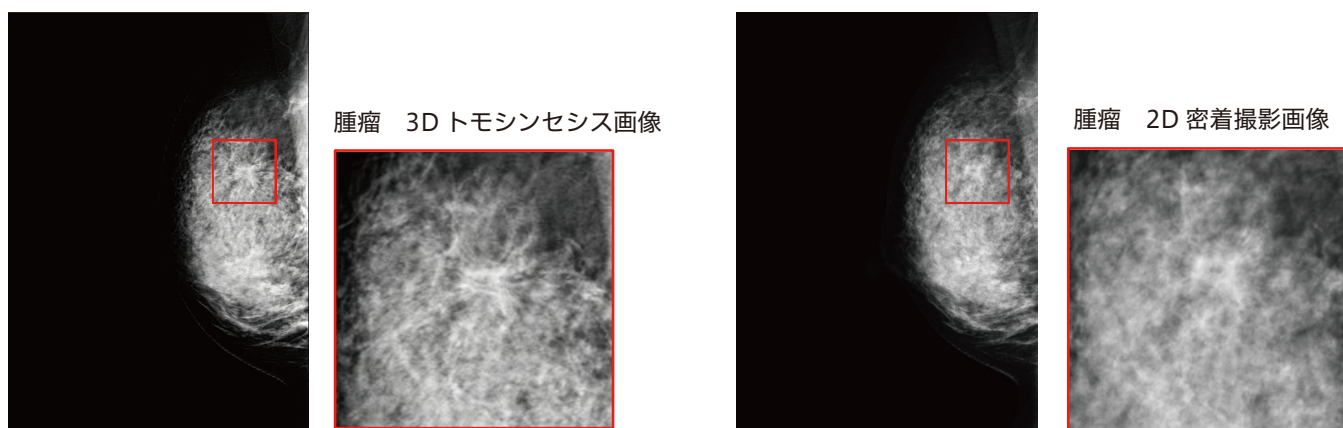


3D マンモグラフィ

(トモシンセシス)

3D で高精細に病変を検出

通常の2Dマンモグラフィでは、病変と周囲の正常組織や乳腺と重なってしまう問題がありました。3Dマンモグラフィでは、周囲の組織や乳腺の重なりを減少させることから、従来では病変の検出が難しい場合でも、病変を検出しやすくなります。

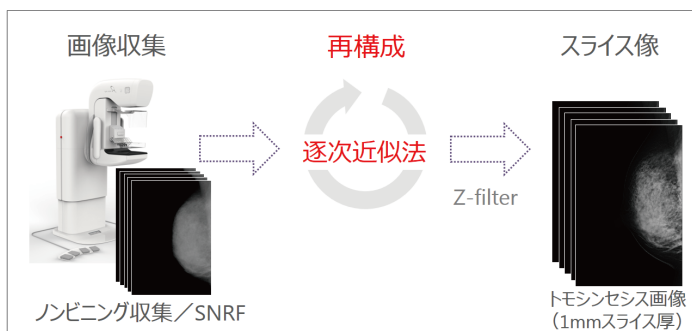


新圧迫方式で 痛みが少ない

新たな痛み低減対策として高精度な圧力検出により、圧迫圧に応じて圧迫速度を徐々に減速する美圧システムを搭載。受診者の状態に合わせて、痛みを低減と同時に診断に有効的な撮影を可能とします。(痛みには個人差がございます)

負担が少ない低被ばく

通常の2D撮影においてもマンモグラフィにおける「医療被ばくガイドライン(低減目標値)」の2.4mGyを半分近く下回る低線量で撮影が可能。更に通常の2D撮影に加えトモシンセシス撮影をしても2.4mGyを下回る低被ばく検査を実現します。



「逐次近似法」によって、高画質と低被ばくを実現します。

3D マンモグラフィ

(トモシンセシス)

奥まった乳がんも 検出可能

当院では最新型 3D マンモグラフィ Pe・ru・ru LaPlus (キャノンメディカルシステムズ製) を導入し、より高精度な乳がん検診を行うことが出来る様になりました。乳房は厚みのある立体ですので、1枚の画像では奥の方の乳腺と重なってしまい「がん」が見えにくくなることがあります。3D マンモグラフィ (トモシンセシス) では、多くの断面画像を読影することで、奥まった乳がんも検出可能となります。



Pe・ru・ru・LaPlus



※断層合成技術 (トモシンセシス)

トモシンセシス (Tomosynthesis) とは Tomography (断層) と Synthesis (合成) の2つの意味から作られた造語であり、1回の断層撮影で任意の再断面を再構成する新しい乳房撮影技術になります。X線管を 15° ($-7.5^{\circ} \sim +7.5^{\circ}$) の範囲で移動させながら17回の撮影を行い、得られた3Dデータを再構成することにより、各断面の画像を構築します。